



実務者のためのデータ(情報)の加工段階における

「グラフ化」スキルアップ研修

～情報の解像度を上げて、他者に適切な理解を促す技術～

と き 2023年 3月 3日(金) 10:00～17:00

開催形式 オンライン開催 (Zoom)



ご参加
いただきたい方

◆すべてのビジネスパーソン

- 特に、
- ① 集めた情報(ローデータ)を上手に加工してグラフ化し、他者にうまく伝えることが苦手な方
 - ② 情報の特性を見極めて、どのグラフを使って伝えるのが最適なのか判断ができない方
 - ③ 印象に残る強い訴求力を持ったグラフを“少労力&少工数で”作成する技術を身につけたい方

収集した情報を一瞥で相手に伝わるグラフ化のスキルを身につけます

皆さんが提案書や報告書を作成する時に、

- 収集した情報を分かりやすくグラフ化して、相手に適切な理解を促すことができない・・・
- Excelでグラフ化してみても、そのグラフを見て伝わりやすさが向上したとは思えない・・・
- 上司から資料にグラフを入れるように言われるが、どのグラフを選択すれば読み手の理解促進につながるのか分からず途方に暮れてしまう・・・

このようなことでお困りかもしれません。

そこで本研修では、上記3つのお悩み解消するために下記3つのスキルを身につけます。

1. 文章を使わずに一瞥ですぐ伝わるグラフの選び方と使い方
2. Excelの自動編集の質を上げるローデータの加工のしかた
3. 意思決定権限者からの賛同と支持を勝ち取れるロジカルに伝わるグラフの使い方

実際、提案書や報告書などの文書の中に、適切な理解を促す分かりやすいグラフが織り交ぜされていると、

- ✓ 相手が一瞥ただけで伝えたいことが伝わるので、分かりやすい文章を捻り出して言語化する労力が省ける
- ✓ 予備情報や前提情報なしに、自分が伝えたい情報が相手にもすぐ同じ解像度で伝わる
- ✓ 自分の提案に対する相手の納得感はもちろん、採用率もアップする

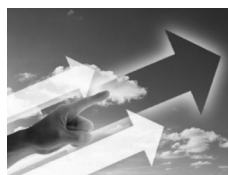
といったメリットがあり、

「時間はないが、残業はできるだけ避けたい」「効率性(スピード)と生産性(質)を一挙両得に上げたい」方々にとって大変有用で、

受講の意義が高い研修です。

この機会にぜひご参加ください。

<<< 研修フォローアップ(学びの深耕と定着支援)のお勧め >>>



本研修では、研修で学んだことを深く腹落ちさせて自分のスキルとして定着させていくために、フォローアップをオプションで選択できます。

①参加者自身を持つデータをグラフ化して伝えたい資料を紙1枚で作成

②当連盟が準備した問題(少し応用的)を研修での学びを活用してグラフ化して作成

上記①②いずれかをご選択いただき、ご提出いただいた後、講師が添削して適切なアドバイスとしてフィードバックいたします。受講のみと比較した場合、実務への応用力に差が出てきますので、是非チャレンジしてみてください。

◆研修プログラム

1. はじめに ～適切なグラフ化の目的とスキルの必要性～

- (1)【演習】その情報(ローデータ)は瞬時に判断できるの?
- (2)データ(情報)の活用目的
- (3)データ(情報)の活用における生産性の向上とグラフの活用目的
- (4)【演習】その情報(統計)は瞬時に判断できるの?
- (5)グラフ活用のメリット

2. グラフ活用の基本1 ～グラフの種類と特徴～

- (1)代表的なグラフとその特徴(ヒストグラム、箱あげ図、棒、帯、円、散布図、レーダーチャート、ヒートマップなど)
- (2)Excelを利用したグラフ作成の基本
- (3)【演習】データを加工してグラフを作成する

3. グラフの作成に慣れる

- (1)【演習】教育用データセット(SSDSE)を使って、様々なグラフの作成を行うことで慣れる

4. データ(情報)の加工と利用に適したグラフの選定

- (1)そもそもデータとは?

- (2)加工段階から見たデータの種類と利用に適したグラフ
- (3)比較に適したデータの加工～箱ひげ図を例に～
- (4)【演習】データ加工とグラフ作成演習

5. グラフの基本2 ～グラフの調整と注意点～

- (1)グラフ化の目的とグラフの調整
～他者への適切な解釈を促すために～
- (2)【演習】グラフの調整
- (3)【演習】グラフを見る時の注意点～デフォルメと合わせて～

6. 推測統計とグラフ

- (1)予測における回帰直線の利用
- (2)回帰直線と散布図
- (3)【演習】散布図を使った未来の予測

7. グラフを使った情報整理

- (1)【演習】他者に伝わりやすい資料への変換
- (2)【演習】説明資料として適切な理解を得るための加工技術

8. まとめ ～データの適切な整理・管理・保存の重要性～

- (1)効率よくグラフ化するために最後に強調したいこと

◆講師

中産連パートナー講師 (データ分析・活用コンサルタント)

早稲田大学卒業後、出版・通信教育会社に就職。20年以上にわたり、教育サービスの事業責任者、サービス共通基盤開発などのメガプロジェクトの責任者を担当。コンサルタントとして独立後、幅広い業務領域での実務経験を通して培った「統計活用」「データ分析」「グラフ化の技術」等のノウハウを活かし、経営分析、業務分析、業務構築・リエンジニアリングの社員教育など、企業向け支援を中心に活動する傍ら、国立大学法人にてデータサイエンス、教育測定・評価論の講座を担当している。また、国内最大手のビジネススクールの講師、ウェビナーサイトUdemyでの講師を務め、本研修テーマに関連した情報(データ)分析による課題発見力&仮説構築力のセミナー受講者は既に1万人を超えている。アクティブ・ラーニングの手法を取り入れた受講者との双方向型の研修は、丁寧な説明と実務に直結したケーススタディとの併用で、学ぶ意欲を強く引き出してもらえたと好評。その他、データ(統計)のグラフ化に関する共著も上梓している。

実務者のためのデータ(情報)の加工段階における「グラフ化」スキルアップ研修 (3/3) 参加要項/参加申込書

参加費 (1名様)		中産連会員	中産連会員外
	セミナー受講のみ	33,000円(消費税込)	44,000円(消費税込)
	事後行動支援(フォローアップ)*付き	38,500円(消費税込)	49,500円(消費税込)
申込方法	<ul style="list-style-type: none"> ●中産連ホームページ(https://www.chusanren.or.jp)より申込みが完了しますと、申込責任者のメールアドレスに「申込完了メール」が届きます。 ●FAXでのお申込みも可能です。下記申込書に必要事項を記入の上、切り取らずに送信してください。 ●フォローアップ(事後行動支援)を希望される方は下記申込書の欄に「レ」を入れてください。 ※コンサルタント及び同業の方の参加はお断りしております。ご了承ください。		
受講までの流れ	① 開催日の約1週間前になりましたら、申込責任者宛に「参加用URL」「ミーティングID」「パスワード」をメールにてご案内します。 ② 「テキスト」と「請求書」は開催日の約1週間前に申込責任者へ郵送します。 【オンライン受講の注意事項】 ・ 配信システムはZoomを使用します。Zoomがインストールできるカメラ付きパソコンをご用意ください。また、イヤホン付きマイクのご使用を推奨します。 ・ 接続が切れないよう有線のLAN環境での受講を推奨します。また、接続先環境に起因する音声・映像障害などについては保証しかねますのでご了承ください。 ・ IDを共有してのご聴講や、画面をスクリーンに投影してのご聴講など、参加者ご本人以外の使用は禁止となります。 ・ 研修の撮影・録音も固くお断りします。		
キャンセルについて	お客様のご都合によりキャンセルされる場合には、以下のキャンセル料を申し受けます。 テキスト発送後(開催日の約1週間前)………受講料の100% ※テキスト発送日はセミナーにより異なりますので下記担当者へご確認ください。		
申込み・問合せ先	一般社団法人中部産業連盟 マネジメント研修事業部 小橋川 〒461-8580 名古屋市東区白壁3-12-13 TEL052-931-9824 FAX0120-342-340 e-mail : kohashikawa@chusanren.or.jp		

年 月 日

会社名 _____

〒 _____

所在地 _____

TEL _____ FAX _____

フォローアップ(事後行動支援)を希望(レ)	参加者 所属部課・役職名	参加者氏名(フリガナ)	年齢	E-mail アドレス
<input type="checkbox"/>				
<input type="checkbox"/>				

申込責任者 所属部課・役職名	申込責任者氏名(フリガナ)	E-mail アドレス

会社概要	業種(主要製品名)	資本金	従業員数
		百万円	人
中部産業連盟会員(○印をお付けください)		会員	会員外

今回ご記入いただく個人情報、セミナー等の運営・情報提供(郵便、メール、FAX等)に
 においてのみ使用致します。
 詳細は当連盟HP(<http://www.chusanren.or.jp/privacy/index.html>)をご覧ください。
 同意のうえ、ご協力をお願い致します。関連情報が不要の場合には下記にシ点のご記入
 入をお願い致します。 セミナーなどの関連情報の案内を希望しない



FAX 0120-342-340

マネジメント研修事業部 小橋川 行